令和５年度学校経営方針
(School Management Policy)

戸田市立戸田東中学校

（*Toda Higashi Jr. High School*）

校長　鈴木　研二

本校の概要

１　開校６４年目

２　生徒数

１学年	５学級	１９７名	（＋２４）
２学年	５学級	１７５名	（＋１８）
３学年	４学級	１５８名	（＋２７）
特支	３学級	１４名	（＋　７）
合計	１５学級	５４４名	（＋７６）

３　教職員数

県費教職員	３２名
市費教職員	１５名

「研究主題」

未来社会を創造する児童生徒の育成

～副主題～

「協働的な学びと探究的な学習活動を充実する カリキュラム・マネジメントの推進」

～GIGAスクール構想とＰＢＬの推進～

「１０年後、２０年後の生徒を 見据えた教育活動の創造」

学校教育目標（目指す生徒像）

「 グローバル社会で、将来、

豊かに生き活躍できる生徒の育成 」

1　**（豊かな人間性を持つ生徒）**自己を大切にし、他者を尊重し、対話や協働を通じて、共に幸福で豊かな社会を築いていける生徒

2　**（可能性に挑戦し続ける生徒）**自ら将来像を描き、夢と志を持ち、可能性に挑戦し続ける生徒

3　**（主体的に学び続ける生徒）**自ら課題を見つけ、身に付けた知識や技能を活かし、生涯にわたって主体的に学び続ける生徒

生徒に身に付けさせたい力／
グローバル・スキル(Global Skill)

○21世紀型スキル

（自律的学習力、課題発見解決能力、ITスキル、論理的思考力等）

○汎用的スキル

（知識や技能を現実の社会で使いこなせる力等）

○非認知スキル

（やり抜く力、探求力、自己肯定感、協調性、多様性理解等）

戸田東中学校研究推進体制

●授業時数特例校
（文部科学省：令和４年度～）

●戸田市教育委員会研究委嘱
（令和４・５・６年度）

主題：未来社会を創造する児童生徒の育成

副題：協働的な学びと探究的な学習活動を充実するカリキュラム・マネジメントの推進（ＰＢＬと教科等）

方針１　確かな学力の育成
～「教え」から「学び」への転換～

目標１　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

- 一斉講義型授業からの脱却と校内研修の充実（学び・思考・表現の重視）
- アクティブ・ラーニング（AL）の視点に立った魅力ある授業づくり
- 未来の教育を見据え、ICTを積極的に活用した授業づくり
- 学力の3要素、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」のバランスの重視

方針１　確かな学力の育成　「東雲授業スタイル」
～戸田東中２１世紀型授業への転換～

目標２　個別最適な学びと協働的・探究的な学びの実現

①ＰＣのマストアイテム化（全教科で一人一台のＰＣの文房具的活用）
②一斉講義型授業からの脱却、「教え」から「学び」への転換
③主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実現
④小グループ配置による「協働的な学び」「探究的な学習活動」の実現
⑤深い学びにつながる教員の発話や課題設定「ジャンプの学び」
⑥プリント学習の見直しや削減、電子プリントや反転学習へのチャレンジ
⑦思考・判断・表現力育成の視点に立った学習プリントやテストの活用
⑧学習者用並びに教師用デジタル教科書の日常的な活用
⑨２１世紀型教師への変容（学びのファシリテーター）
⑩ＥＢＰＭ(Evidence-Based Policy Making)による検証と改善策の策定

方針１　確かな学力の育成
～「教え」から「学び」への転換～

目標３　GIGAスクール構想の実現

ＳＴＥＰ１　学校経営案への明確な位置付けとプレゼン（４月）
ＳＴＥＰ２　職員会議での計画的な理念の浸透（毎月）
ＳＴＥＰ３　教員自己評価シートへの目標と手立ての設定（５月）
ＳＴＥＰ４　管理職面談での意識の醸成（５～６月）
ＳＴＥＰ５　教育委員会学校訪問での授業実践と研究協議（６月）
ＳＴＥＰ６　校内研修での実践並びに理論研究（年３回）
ＳＴＥＰ７　学力向上月間での授業実践と管理職との研究協議（１２月）
ＳＴＥＰ８　管理職面談での振り返りと次年度の目標確認（１～２月）

未来につながる学力の育成

◇**自立した学習者の育成**

→「学びに向かう力、人間性等」

↓

ＧＩＧＡスクール構想の実現

×

ＰＢＬの推進

方針１　確かな学力の育成
～未来を見据えた学校教育への転換～

目標４　課題発見・解決能力と論理的思考力の育成を図る教育の推進

- STEAM教育との関連を図り、教科等横断的で探究的な学習を重視したPBL（Project-based Learning：課題解決型学習）の充実
- 組織的・計画的な教育の質的向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進（授業時数特例校制度の活用）
- 産官学との連携による「社会に開かれた教育課程」の推進
- エビデンスベースによる指導改善サイクル（PDCA)の確立

ＰＢＬ（課題発見解決型学習）の推進

① ２１世紀型スキルの育成

（自律的学習力、課題発見解決能力、ITスキル、論理的思考力等）

② ９年間のＰＢＬ小中学校一貫教育カリキュラムの策定

③ 産官学と連携した学習活動

（文部科学省、地域社会、大学関係、民間企業、ＮＰＯ等）

④ 授業時数特例校制度の活用（文部科学省研究指定校）

（STEAM教育との関連を図り、教科等横断的で探究的な学習を重視した活動の充実）

⑤ STEAM Labの設置と活用（ＩＣＴ教育の知の拠点）

（最先端のＰＣ、３Ｄプリンター、Adobe pro動画ソフト･･･）

戸田東小中学校　ＰＢＬ東雲カリキュラム

総合的な学習の時間

中３　世界と共に生きる ～We are the world～

中２身近な課題の解決 ～５つのテーマに分かれて～

中１　やってみよう！いつか当たり前になることを

小６　戸田市に幸せの花を咲かせよう

小５　Well　Being ～みんなの手で便利を～

小４　モヤモヤヒガーシ解決隊

小３　みんなの力で東小を救え！フードロスZERO！

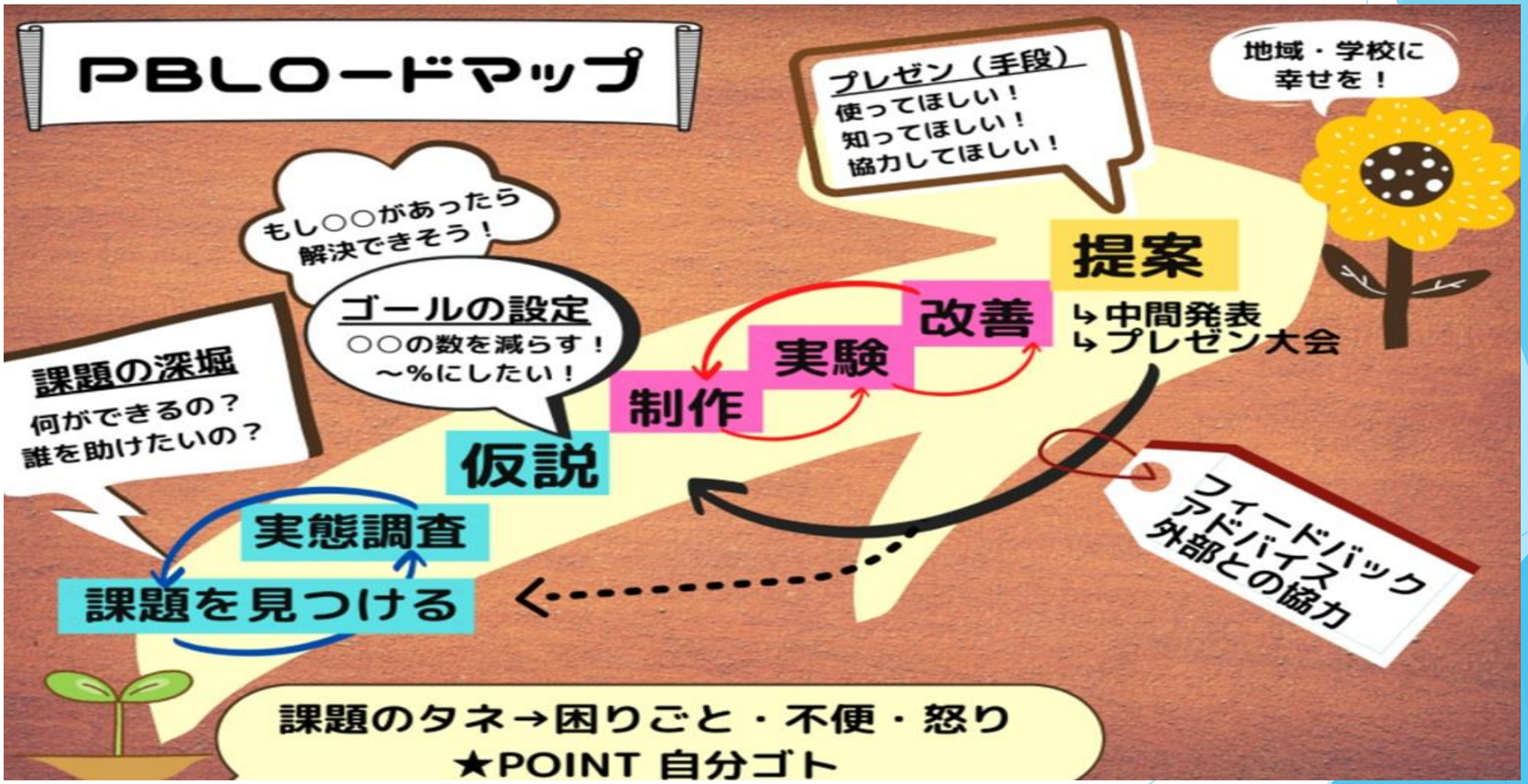
生活科

小２　めざせ！うごくおもちゃクリエイター

小１　きせつマスターになろう！

なのはな学級
東小のスーパーナビゲーターになろう！

戸田東小中学校　ＰＢＬロードマップ



方針２　豊かな心の育成
～自主・自立の精神の醸成～

目標５　生徒の自己肯定感・自己有用感を高める教育の推進

- 他者と協働し、より良い学校文化を築く教育活動の推進
- 議論する道徳科を要とした教育活動全体を通じた道徳教育の推進
- 生徒一人一人の役割・責任・達成感を大切にした行事・体験活動の充実
- ＰＢＬや各教科等で自己肯定感を高める授業展開の工夫・評価

方針２　豊かな心の育成
～自主・自立の精神の醸成～

目標６　組織で進める生徒指導・教育相談体制の構築

- 生徒理解を核とした教師と生徒の信頼関係に基づく生徒指導・教育相談の推進（**いじめ・暴力行為の撲滅**）
- 共通理解・共通行動による組織的な指導と多様なニーズへの対応
- 迅速な報告・連絡・相談による適切な対応と指導体制の充実
- さわやか相談室を核とした教育相談体制の確立（**不登校対策**等）
- 学校・家庭・地域社会・関係機関と連携した指導・相談体制の確立

方針３　小中一貫教育の推進
～９年間の系統性ある教育～

目標７　小中一貫教育の教育課程の編成と実施

- 小中学校９年間で目指す子供像、具体的目標・計画等の設定と共通認識
- 小中一貫教育推進のための組織と研修の充実
- 教科等の９年間の系統性・連続性を踏まえた学習指導・体力向上策・特別支援教育（特別支援学級含む）の推進
- ９年間を見通した生徒指導・生活指導、教育相談、キャリア教育の充実

方針４　教室と社会をつなぐ教育の推進

目標８　コミュニティ・スクールの推進と充実

- 教職員・保護者・地域住民等による熟議を通した共通認識の醸成
- 「学校・家庭・地域」に共通目標と問題意識の共有
- 小中学校合同による学校運営協議会の開催と充実
- 教職員・保護者・地域住民等の当事者意識に立った責任ある学校運営

方針４　教室と社会をつなぐ教育の推進

目標９　社会に開かれた教育課程の編成と実施

- 地域社会と共に生徒を育む教育活動の計画と実施
- 産官学との連携による効果的・先進的な教育活動の展開
- 地域と連携したPBL（課題解決型学習）を取り入れた教育活動の積極的な実施
- 家庭・地域社会への積極的な情報発信と説明責任の遂行

方針５　安心・安全な教育環境の充実と学校運営の改善

目標１０　学校・家庭・地域社会が連携した教育環境の充実

- 関係者、関係機関と連携した安全管理の徹底
- 生徒目線に立った施設・設備の安全点検の実施と迅速な修繕・整備
- 自分の身は自分で守る危機管理意識の醸成を図る安全教育の推進
- 定期的な学校評価の実施と結果を生かした授業や教育活動等の改善

方針６　学校における働き方改革の推進

目標１１　<u>業務改善を通した学校運営の推進</u>

- 学校行事や会議等の精選とスリム化による業務量の削減
- 学校業務の電子化による仕事の標準化と効率化
（教材や各種資料の共有、会議資料や便りのペーパーレス化）
- 校務分掌組織等の見直しと市費職員との連携による仕事分担に基づく業務の平準化と統合化
- 教職員の意識改革（タイムカードによる勤務時間管理、計画性のある業務進行、仕事への協力体制の確立等）
- 部活動複数顧問制による役割分担の推進

御清聴ありがとうございました。